

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 自 部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、事業計画を作成しており、ホームの目標を明確にしている。目標に沿った運営が行えるよう、申し送り等で話し合っている。	法人理念は毎日、15時からの申し送り時に唱和し共有している。毎年、理念に基づいたホーム独自の事業計画と目標を職員の話し合いで立てている。行動目標に応じた実践状況をフロア会議で確認し合いケアに活かしている。また、取り組みの内容については運営推進会議や家族来訪時、事業所新聞等で知らせている。理念にそぐわない言動が職員に見られた時には、個別面接やフロア会議の議題に挙げて話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症拡大の為、買い物や運動会などは自粛しているが、下車しないドライブや、近隣の散歩、運営連絡協議会などを企画・開催している。	自治会費を納めており、地域の人々との付き合いはあるが、今年度は新型コロナ禍ということもあり地区の行事や交流は自粛している。近隣への散歩は続けており親しく挨拶を交わす間柄となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族へむけて新聞の発行、運営推進会議委員への資料配布、ホームページの更新等でも、当ホームの運営理念を知って頂ける機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症拡大の為、開催はしていないが、委員への資料や事業所新聞の配布を行っている。	2ヶ月に1回、偶数月の開催予定としているが、現状、新型コロナウイルス禍にあり、委員の方に資料を送付し、何かあれば電話等で意見を伺うようにしている。メンバーは家族代表、区長、役場地域包括担当者、第三者委員、ホーム職員で構成されている。内容として、現況報告、利用者入退院等の状況報告、満足度調査の結果や防災関連の報告等をしており、出された意見や助言などをホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営連絡協議会で意見を交換したり、市町村向け事故報告書の提出、運営に関する相談などを行っている。	介護認定更新時には調査員が来訪し、同席できる家族と共に情報を伝えている。運営連絡協議会(町役場、法人2か所のグループホーム、地元代表、病院で構成)が年2回開かれ、事業所運営に関する相談をしたり助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内では原則身体拘束は禁止しており、全職員対象の研修を行っている。	玄関は防犯上の理由で日中も施錠されている。拘束を必要とする利用者はなく、外出傾向の強い方には職員と一緒に散歩に出かけるなどの対応をしている。法人としても研修会を行い拘束のないケアに取り組み、フロア会議でも事例検討の形で話を深めている。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で全職員対象の研修を行っている。フロア会議で、ケアについての困難事例を職員間で話し合い、意識の共有や成功事例を話し合っており、職員の孤立を未然に防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の全職員対象の研修の中で学ぶ機会を持っている。現在、制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結または解約の面接時には、事前に利用者様、ご家族に契約書、重要事項説明書を用いて、丁寧に説明しており、同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に明記している。毎年、満足度調査アンケートを実施している。また、利用者様の「つぶやき」を記録しており、その「つぶやき」の内容をフロア会議で検討しサービスの改善につなげている。	ほとんどの利用者は言葉で意見や要望を伝えられる。伝えられない方についてはフロア会議で困難事例として検討し思いを受け止めるようにしている。家族の来訪は週1回から3ヶ月に1回はある。新型コロナウィルス禍ではあるが週末に定期的に外泊したり、月に1回の受診に同行したり、玄関で距離を置いて面会したりリモート面会などもしている。年2回の満足度調査アンケートや利用者の「つぶやき」を記録し、また、利用者や家族の意見を把握し、サービスの向上に活かしている。ホームの「たつの便り」を月1回発行し、利用者全員の様子を写真入りで伝えることで家族も楽しみに読まれ、意見を頂ける機会ともなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月フロア会議にて、各スタッフと活発な意見交換を行っている。	毎日の申し送り時や月1回開かれるフロア会議で、業務報告や日々の取組み状況、事例検討等、活発に意見交換を行いサービス向上につなげている。法人として人事考課制度があり、チャレンジシート・実績評価表を基に個別面接が行われ、また、表彰制度を取り入れ職員の意欲とスキルアップに結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート、実績評価表を基に個別面接を行うようにしている。優秀職員個人賞、チーム賞、理事長賞等の表彰制度を取り入れており、各職員の意欲に結びつけられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートに基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、法人内の交換研修を行い、他の事業所や他部門の研修を行っている。法人外の研修にも参加をしている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の拡大により、他事業所と交流する機会はなかなか作れないが、法人内での勉強会で他事業所の意見を聞ける機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接において、家族だけでなく本人にも必ず同席して頂き、利用者様の不安や要望もお聞きするようにしている。面接内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映し各職員が事前に関覧している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接において、不安や要望をお聞きしている。面接内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映し各職員が事前に関覧している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに見学に来て頂き、概要を説明した上で、入居申し込み用紙を記入して頂いている。相談内容からグループホーム以外の利用が適切と判断した場合は、相談の上、他施設の利用も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子観察を十分に行い、その立場に立った会話をし、思いを知るようにしている。利用者の思い等の情報は記録に残し、スタッフ全員で共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入館制限を設けている為、面会の機会は減っているが、外出、外泊、受診の際はご家族との時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	WEB面会や、フィルム越しの面会を推進し、ご家族へ取り組みを紹介している。	新型コロナ禍にあり、家族以外の来訪や交流は控えて頂いている。馴染みの関係が途切れないように、利用者の身内の方が併設のデイサービスを利用される時には面会していただき、楽しい時間が過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席順は、相性の良い方が近くなるよう配慮し、身体的なハンデがある方は職員が都度間に入って、コミュニケーションが円滑に取れるよう支援している。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退居された方については、ご家族・病院と連絡を取り合い、その後の生活場所に困る事の無いよう連絡・連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のフェイスシートを確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映している。	ほとんどの利用者は希望や意向が表出できる。おやつ飲み物は4種類から選んでいただき、また、朝、着たい服を選んでいただく等、複数の選択肢から選べるように声がけしている。利用者同士の会話などで、ふと、つぶやく言葉を記録し職員間で共有し、利用者の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のフェイスシートを確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のフェイスシートを確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、利用者様との会話、ご家族との情報交換を大切にケアプランを作成している。	職員は2～3名の利用者を担当しアセスメントを行っている。モニタリングは半年に1回行い、カンファレンスで意見を出し合い、家族の意見も反映させ計画担当者がケアプランを作成している。状態に変化がある時は随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を毎日残すようにしている。また、利用者様の表情の変化や、つぶやき、ひやり・はっとした内容についても記録に残し、サービスの工夫につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、病院受診や、個別外出について、職員が付き添うようにしている。外出や外泊が可能なことをお伝えしている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営連絡協議会にて地域の方と話す機会を作り、無断外出による利用者様の捜索や、災害が起きた場合について、連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が入居前から受診している主治医と継続して受診していただき、情報共有を行いながら対応している。	利用前のかかりつけ医を継続されている方が大半で、家族が付き添って受診している。必要であれば受診時、検温や血圧記録表を準備し情報を共有している。また、近くの医療機関の医師の往診を受けている方もおり、薬は家族が取りに行っている。町の訪問看護ステーションと契約し健康管理や緊急時の対応ができるように体制を整えている。歯科については協力歯科医が必要に応じて往診し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	辰野町 訪問看護ステーションと契約を結び、24時間連絡できる体制をとり連携を図っている。また、併設事業所の看護スタッフとも連携を図るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホーム内での生活の様子を病院に情報提供している。また、退院時は、各利用者様のかかりつけ医や、協力医療機関である辰野病院からの情報を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を共有することをしている。利用者様の状態が、治療・療法・看護等を常時必要とする状態になることが考えられる場合は、退居後もご家族や病院と連絡・連携している。	法人の重度化指針があり、利用契約時に本人や家族に説明をし理解をいただいている。浴槽への出入りが困難になったり、常時、医療・看護が必要になるなど状態の変化に合わせて家族、職員、医師等で話し合い、住み替えを含めた支援を検討している。要介護3・4になったら特養への申し込みの説明をし法人内の他施設や医療機関の紹介などの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成して、周知している。連絡方法や職員の動きを明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し周知している。職員連絡網を整備し、定期的に地域と連携した防災訓練を実施している。	年2回防災訓練を実施している。ホーム裏山が町の防災マップでは「土砂崩れ」レッドゾーンに指定されているため、秋には町対策本部の指示のもとに利用者は2階に避難する訓練を行っている。春には通報、消火、避難の訓練も行っている。地元への協力依頼については運営推進会議で地元区長から提案をして頂き、今後、訓練への参加を働きかけるなど、地域の人々と連携した実戦的な訓練を目指している。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	エリア内で実施されるマナー研修に全職員参加している。事業所内でも利用者様・ご家族対応についての事例を取り上げて勉強会を実施している。	名前は苗字に「さん」付けでお呼びし、居室に入る時はノックと声掛けをするようにしている。利用者の誇りを傷つけるような「ダメ」「そうじゃない」という言葉は使わないように徹底している。法人のエリア内でのマナー研修を受講し、ホームでのプライバシー保護の勉強会を開くなど、尊厳のある支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選択や意思表示をしてもらうことを心掛けて言葉掛けをしている。利用者様の日々のつぶやきに耳を傾け、つぶやきに記録をし、希望に合わせた支援に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お掃除、洗濯、食事作り、お買い物等行う前に必ず、お声を掛け確認後行って頂いている。体調や気分に合わせて参加ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を確認して、理美容の予約をしている。衣類購入は、好みを良く知っているご家族にお願いしている。着替えの際には、着たい洋服を選んで頂きサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は現在自粛しているが、地元の食材や旬の食材を選んで調理している。準備、片付けの役割も定着していて、ご自分から行って下さる方もいらっしゃる。	一口大に切り分ける方も含めて、全利用者が常食を自分で摂取できている。献立は法人の栄養士が2週間分ずつ立て、食材は職員が買い出しに出かけている。利用者も交代でスーパーに出かけていたが今は自粛している。お手伝いは具材を切ったり、下ごしらえ、盛付け、片付け、食器洗い等、積極的にかかわって頂いている。献立はアレンジも可能で利用者の希望も取り入れている。行事食としてオードブルを利用したり、誕生会にはケーキを提供し楽しんでいただいている。近所から差し入れがあったり、ホームの畑でも野菜の収穫があり食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士による栄養バランスが考慮された献立を作成している。主治医とも、情報共有し、食事量や栄養バランスに注意が必要な利用者様について把握し指導を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促している。定期的に口腔の清潔保持に関するアセスメント、評価を行い、その内容に基づいて、サポートを行うようにしている。また、協力歯科医院に訪問してもらい、口腔ケアに関する指導を受けている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	エリア内でおむつ削減に取り組んでおり、毎月の事業所内の会議で、おむつ外しやおむつ軽減に向けた取り組みを行っている。	布パンツで自立されている方は若干名で、リハビリパンツ、パットを併用するなど一人ひとりに合わせた対応をしている。トイレでの排泄を目指してパットをやめたり、布パンツに変えるなど排泄用品を減らす取り組みもしている。食事の前後、水分摂取の状況に応じてトイレにお誘いしている。自分でパットをとってしまったり失敗することもあるが、さり気なく対応するようにしている。トイレ表示を絵入りにしてよりわかりやすくするように考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、牛乳をお勧めしている。食事の際に、ヨーグルト、果物の提供を心がけている。また、ラジオ体操、散歩、有酸素運動を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の様子、希望を確認し、入浴前に、体温、血圧等測定し、安全に入浴が行えるようにしている。また、安全な範囲で好みの湯温で入って頂けるようにしている。	ほとんどの利用者が見守りで、また、一部介助で入浴している方もいる。午後3時から6時の間に週3日以上入って頂いている。入浴を拒む方は「ごしたい、裸になりたくない」との理由があるが入浴後は気持ち良さそうで、時間、担当職員を変えてお誘いしている。利用者が「午後入浴します」と記しておくことでスムーズに入浴につながることもある。柚子やリンゴ湯等で入浴を楽しまれることも考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にお声を掛け、居室やソファにて休んで頂けるようサポートをしている。夜間については、定時の巡視を行い不眠の方については、定期的にあセスメントを行い、医療面も含めてサポートをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時にお薬の処方箋を出して頂き、ホームへも情報提供してもらえるようにしている。処方箋をファイルに保管することで、職員間で情報共有し適切な内容で服薬が行えるようにサポートしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のフェイスシートを利用し、個々の生活歴を把握している。利用者様が希望する役割や、楽しみはケアプランにも反映し、張り合いのある生活につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や、車外には出ない事を条件にドライブなどを行っている。	外出の手段としては車いす利用の方が若干名、歩行器の方が数名、あとの方は自力歩行されている。日常的にはホーム周辺の散歩やゴミ出しのお手伝いなどを行っている。行事外出は新型コロナ禍ということもあり、車外には出ないようにしてドライブに出かけている。レクリエーション担当の職員が計画を立て、花見、紅葉狩り、諏訪湖ドライブなどに2～3グループに分けて出かけ、気分転換を図っている。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、万が一紛失してもいい額にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等のやり取りをしている利用者様はいらっしゃらないが、ご家族への電話を希望された時には、電話で話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を飾ったり、施設で作成した小物などを置く工夫をしている。また、台所や浴室についても、各物品を使いやすいように整えている。テレビや音楽の音量、光、照明についても利用者様に確認し調整している。	ホール兼食堂にはテーブル、いすなどが置かれ、大型テレビの前には大きなソファも置かれ、ゆったりと過ごせる空間となっている。食堂に続くキッチンも自宅にいる感じで利用者も一緒に調理しやすくなっている。開設から21年を迎え、途中でリフォームをしているが、床はきれいに磨かれ、壁には利用者の書初めや優しい絵画も飾られ、華美な装飾もなく落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、テーブル、椅子、ソファを置いてお好きな場所で、自由にくつろぐことができる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や、カンファレンス時に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品をご準備して頂くをお願いしており、各利用者様の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	各居室入口には思い思いの暖簾がかけられたり、チヨ紙の飾りで自室がわかりやすくなっている。室内には洗面台と吊戸棚が備え付けられ、冷暖房はエアコンで過ごしやすくなっている。ハンガーラックやタンスなど、自宅で使い慣れた物を持ち込み自由に配置されており、利用者にとって居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		